

○福島県「浜通り」地域の新たな産業基盤の構築を目指し、イノベーション・コースト構想研究会を開催。

○研究会は、原子力災害現地対策本部本部長(経済産業副大臣)を座長とし、地元首長を含む産学官の有識者で構成。各プロジェクトの具体化とともに、産業基盤のみならず周辺環境整備のあり方も含め、広く検討中。構想の主要プロジェクトは以下の通り。

○内堀福島県知事からは、「この構想の原点は、福島オリジナルの国際研究産業都市構想であり、浜通り復興の力強いエンジンとして、早急に、そして目にみえる形で実現をしなければなりません。」(平成27年10月29日 第6回イノベーション・コースト構想推進会議)との発言あり。

1. 既に事業化が進んでいるもの

1. 放射性物質分析・研究施設

⇒ 燃料デブリや放射性廃棄物などの、処理・処分技術の開発などを実施。大熊町において、平成29年度の運用開始を目指す。



2. 櫛葉遠隔技術開発センター

⇒ 廃炉作業等に從事するロボットの実証施設。櫛葉町において、昨年9月に一部運用開始。



3. 廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟

⇒ 国内外の大学、研究機関、企業が集結し、廃炉研究を強化。平成28年度中に富岡町内に整備予定。



2. 今後事業化を進めていくもの

1. ロボットテストフィールド

⇒ 無人航空機や災害対応ロボット等の実証実験が行えるテストフィールドを整備。平成28年度予算案において、整備に必要な費用として、51.0億円の予算を盛り込んだ。



2. 産学官共同研究室

⇒ ロボット技術の共同研究施設を設置。平成28年度予算案において、整備等に必要な費用として、21.7億円の予算を盛り込んだ。



3. スマートエコパーク

⇒ リサイクル産業の集積を図るプロジェクトを実施。県において、研究会を開催中。

4. 国際産学連携拠点

⇒ 国内外の機関が結集し、廃炉、環境修復、農林水産等の教育・研究を実施。具体化に向けてさらに検討。



5. エネルギー関連産業

⇒ エネルギー産業の集積に向けた各種プロジェクトを実施。具体化に向けて福島県が検討。

6. 農林水産プロジェクト

⇒ 各種プロジェクトを実施。具体化に向けて福島県が検討。